

群馬の古代地名

群馬県立女子大学教授 北川 和秀

一、倭名類聚抄における上野国の郡名・郷名

東山郡第六十二

上野国 国府在群馬郡行程上二十九日下十四日 管十四 田三萬九百三十七町百四十四步正公各三十

萬東本額八十八萬四千束雜額二十八萬四千束 碓氷 宇須比 片岡 加太乎加 甘楽 加牟良

多胡 胡音如吳 緑野 美止乃 那波 群馬 久留未 国分爲東西二郡府中間国府 吾妻 阿

加豆末 利根 止祿 勢多 佐位 新田 尔布太 山田 夜末太 邑楽 於波良岐

(二十卷本『倭名類聚抄』卷五)

上野国第九十二

碓氷郡

飽馬 安木末 石馬 坂本 佐加毛土 磯部 伊曾倍 石井 伊波井 野後 馭家

浮囚

片岡郡

若田 和加多 多胡 高渠 太加無曾 佐没 長野 奈加乃

甘楽郡

貫前 奴木乃佐 酒甘 丹生 那非 端下 宗伎 端上 有只 那射

額部 奴加倍 新屋 尔比也 小野 乎乃 拔鉢

多胡郡

山宗 也末奈 織裳 於利毛 辛科 加良之奈 大家 武美 浮囚 八田

緑野郡

林原 八也之波良 小野 乎乃 升茂 高足 佐味 大前 尾張 保美

土師 波之 浮囚 山高

那波郡

朝倉 阿佐久良 鞘田 佐也多 田後 多之利 佐味 委文 之上利 池田 伊介多

⑩ 葦束 尔良都加

群馬郡

長野 奈加乃 井出 小野 乎乃 八木 上郊 加無佐土 畔切 安木利 島名 之萬奈

群馬 桃井 毛乃并 有馬 安利萬 利刈 止加利 馭家 白衣

吾妻郡

長田 奈加太 伊参 伊佐萬 大田 於保太

利根郡

渭田 奴末太 男信 奈萬之奈 笠科 加佐之奈 吳桃 奈久留美

勢多郡

⑬ 深田 田邑 多無良 芳賀 波加 桂萱 加加也 真壁 萬加倍 深渠 布加無曾

⑭ 深沢 布加佐波 時沢 藤沢 布知佐波

⑯ 佐伊郡

⑰ 名橋 奈波之 岸新 反治 佐井 淵名 布知奈 馭家 雀部 佐々伊倍

美侶

新田郡

新田 津野 加須乃 石西 祝人 波布利 淡甘 馭家

山田郡

山田 大野 於保乃 園田 曾乃 真張 萬波利

邑楽郡

池田 伊岐太 疋太 比木太 八田 也太 長柄

(二十卷本『倭名類聚抄』卷七)

*『倭名類聚抄』は平安時代前期に成立した一種の百科事典。醍醐天皇の皇女勤子内親王のために源順が編纂した。承平(九三二〜九三八)年間に成立。

〈主な校異〉①野後 能之利(高) ②多胡 多古(高) ③貫前 奴支乃左岐(高)、貫

前 奴木乃佐木(東) ④那波(高) ⑤有旦(高) ⑥額田部(高) ⑦新居

迹比也 ⑧拔鉢(高) ⑨山字 也末奈(高) ⑩葦束 ミラツカ(高) ⑪井出

為豆(高) ⑫上郊 加无豆左乃(高)、上郊 加无佐止(東)、上郊 加无佐乃(東)

⑬深田 フカタ(高) ⑭邑田(高) ⑮桂萱(高・東) ⑯佐位郡(高・東)

⑰多橋(高) ⑱園田 ソノタ(高)

*底本は元和三年、那波道円の校訂による古活字本

(高)は高山寺本(天理図書館蔵。平安時代写)

(東)は天正本(大東急記念文庫蔵。室町中期写)

二、国名および郡郷名の二文字化

◎大宝年間（七〇一〜七〇三）に国名の漢字二文字化が行われた。それに遅れて、郡郷名の漢字二文字化も行われた。いずれも徹底的なものであった。

①三字を二文字にした例

- ・近淡海↓近江、遠淡海↓遠江、上毛野↓上野、下毛野↓下野、无耶志↓武蔵、多遅摩・多遅麻↓但馬、波伯吉↓伯耆

②一字を二文字にした例

- ・倭↓大倭、嶋↓志麻・志摩、木↓紀伊、粟↓阿波

③訓字を字音仮名にした例

- ・三野・御野↓美濃、科野↓信濃、稻羽↓因幡

*近江の場合

- ・「うみ」という語は、海水の海だけでなく、淡水のうみ（湖）も含んだ。
- ・淡水の「うみ」のみを指す語には、「みづうみ」または「あはうみ（淡海）」がある。海水の「うみ」は「しほうみ（塩海）」。

現在の滋賀県は、日本最大の湖である琵琶湖があるので、淡海国といった。よみは「あはうみ」↓「あふみ」。

現在の静岡県西部は浜名湖があるので、「遠淡海（とほつあふみ）」の国といった。今の滋賀県は「近淡海（ちかつあふみ）」の国。遠近は都から見て。

国名が漢字二文字と定められたとき、「近淡海」「遠淡海」はともに漢字三字になつてしまうので、「淡海」を「江」と置き換え、「近江」「遠江」と改めた。しかし、よみは従来通り、「ちかつあふみ」「とほつあふみ」のまま。

両国を区別するのに、遠江を「とほつあふみ」と言えば、近江の方は、わざわざ「ちかつあふみ」と言う必要はない。そこで、近江は単に「あふみ」と言うようになった。

*上野の場合

- ・現在の群馬県のあたりは、古くは「上毛野国（かみつけののくに）」といった。
- ・この国名は、漢字二文字化の折、中間の「毛」の字を切り捨てて、「上野」「下野」とした。よみは従来通り「かみつけの」のまま。
- ・やがて、時代が下るにつれて、「かみつけの」↓「かみつけ」↓「かんづけ」↓「かうづけ」↓「こうづけ」と変化していった。

◎和銅六年（七一三）に郡郷名を漢字二文字化か

畿内と七道との諸国の郡・郷の名は、好き字を着けしむ。

（続日本紀和銅六・五・二） 713

◎神龜三年（七二六）にそれをさらに徹底

其の郷の名の字は、神龜三年（七二六）の民部省の口宣を被りて、改めぬ。
（出雲国風土記総記） 733

- ・漆治の郷。本の字は志丑治なり。
- ・美談の郷。本の字は三太三なり。（以上出雲郡）
- ・三屋の郷。本の字は三刀矢なり。
- ・飯石の郷。本の字は伊鼻志なり。
- ・来嶋の郷。本の字は支自真なり。（以上飯石郡）

- ・拜志の郷。本の字は林なり。（意宇郡）
- ・多祢の郷。本の字は種なり。（飯石郡）

三、上代文献に見える上野の地名

①是に、日本武尊の曰はく、「蝦夷の凶しき首、咸に其の辜に伏ひぬ。唯信濃国・越国のみ、頗未だ化に従はず」とのたまふ。則ち甲斐より北、武蔵・上野を転歴りて、西碓日坂に速ります。時に日本武尊、毎に弟橘媛を顧びたまふ情有します。故、碓日嶺に登りて、東南を望りて三たび歎きて曰はく、「吾孀はや」とのたまふ。故因りて山の東の諸国を号けて、吾孀国と曰ふ。
（日本書紀景行四〇年是歳）

②筑紫の穂波屯倉・鎌屯倉、……上毛野国の緑野屯倉、駿河国の稚贄屯倉を置く。
（日本書紀安閑二・五・九）

③辛巳の歳集月三日記す。佐野の三家と定め賜ひし健守命の孫黒売刀自、此れ新川臣の児斯多々弥足尼の孫大児臣に娶ひて生める児、長利僧、母の為に記し定むる文なり。放光寺の僧なり。（山ノ上碑） 681

④上野国甘良郡の織裳・韓級・矢田・大家、緑野郡の武美、片岡郡の山等の六郷を割きて、別に多胡郡を置く。（続日本紀和銅四・三・六） 711

⑤弁官の符に、「上野国片岡郡、緑野郡、甘良郡、并せて三郡の内三百戸を郡と成し、羊に給ひて、多胡郡と成す」とあり。和銅四年三月九日甲寅の宣なり。左中弁正五位下多治比真人、太政官二品穂積親王、左大臣正二位石上尊、右大臣正二位藤原尊なり。（多胡碑） 711

⑥ 上野国群馬郡下賛郷高田里の三家の子孫、七世の父母・現在の父母の為に、現在侍る家刀自、池田君目頼刀自、又児加那刀自、孫物部君午足、次に瓢刀自、次に乙瓢刀自、合せて六口、又知識に結べる人、三家毛人、次に知万呂、鍛師礪部君身麻呂、合せて三口、如是知識に結びて天地に誓み願ひ仕へ奉る石文。神龜三年丙寅二月廿九日〈金井沢碑〉726

⑦ 太政官奏すらく、「武蔵国は山道に属ると雖も、兼ねて海道を承けたり。公使繁多くして祇供堪へ難し。その東山の駅路は上野国新田駅より下野国足利駅に達す。此れ便道なり。而るに枉りて上野国邑楽郡より五箇駅を経て武蔵国に到り、事畢りて去る日に、また同じき道を取りて下野国に向ふ。今東海道は、相模国夷参駅より下総国に達するまで、その間四駅にして往還便ち近し。而して此を去り彼に就くこと、損害極めて多し。臣ら商量するに、東山道を改めて東海道に属らば、公私所を得て、人馬息ふこと有らむ」とまうす。奏するに可としたまふ。

（続日本紀宝龜二・一〇・二七）771

四、木簡に見える上野国の郡郷名

- ① 佐為評 (飛鳥京跡木簡) *佐位郡
- ② 一斗 (飛鳥京跡木簡) *碓氷郡
- ③ 確日評〔丁カ〕 □大□少丁〔支多比〕 (飛鳥京跡木簡) *碓氷郡
- ④ 上毛野国車評 (飛鳥京跡木簡) *群馬郡
- ⑤ 上毛野国車評桃井里 (藤原宮木簡) *群馬郡桃井里
- ⑥ 大荒城評胡麻□ (藤原宮木簡) *邑楽郡
- ⑦ 邑楽□〔郡カ〕 (平城宮木簡) *邑楽郡
- ⑧ 上野国緑野郡小野郷 戸主物部鳥麻呂戸中男作物鹿腊代雑…… (平城宮木簡) *緑野郡小野郷
- ⑨ 大前里六…… (平城宮木簡) *緑野郡大前里

五、万葉集東歌から (一部)

- ⑨ 上野国山田郡大野郷〔田後カ〕 □里 鴨部子□村輪押年魚大賛陸斤 天平八年十月 (平城京木簡) *山田郡大野郷
 - ⑩ □上野国山田郡真□…… (平城宮木簡) *山田郡真張郷
 - ⑪ 上野国甘楽郡新屋郷 □……
 - 上戸宋宜部猪万呂養錢…… (平城京木簡) *甘楽郡新屋郷
 - ⑫ □吾妻〔国カ〕 (平城宮木簡) *吾妻郡
 - ⑬ □□□□ (平城宮木簡) *勢多郡
 - ⑭ 挂草郷…… *勢多郡挂草郷
- 342342B420413403402
- 《上野国東歌》
- 日の暮に碓氷の山を越ゆる日は夫なのが袖もさやに振らしつ
 吾が恋は現在もかなし草枕多胡の入野の将来もかなしも
 利根川の川瀬も知らず直渡り波にあふのす会へる君かも
 上毛野佐野の舟橋取り放し親は離れど吾は離るがへ
 伊香保嶺に雷な鳴りそね吾が上には故はなけども子らによりてそ
 伊香保風吹く日吹かぬ日ありと言へど吾が恋のみし時なかりけり
- 3540494
- 《未勘国東歌》
- 子持山若鷄冠木の黄葉つまで寝もと吾は思ふ汝は何どか思ふ
 左和多里の手児にい行き逢ひ赤駒が足掻きを速み言問はず来ぬ

	郡名	新地名	よみ	旧地名	新地名由来	現在
20	吾妻郡	伊参村	いさまむら	原岩本・五反田・蟻川・大道新田の4か村が合併して成立	往古伊参郷に属したと伝えられていることによる	中之条町
62	北甘楽郡	新屋村	にいやむら	白倉・庭谷・造石・天引・金井の5か村が合併して成立	〈古代の郷名にちなむか〉	甘楽町
68	北甘楽郡	小野村	おのむら	蕨・桑原・小桑原・後賀・相野田・白岩・藤木・下高尾・上高尾の9か村が合併して成立	〈古代の郷名にちなむか〉	富岡市
71	北甘楽郡	額部村	ぬかべむら	南後箇・野上・岡本・岩染の4か村が合併して成立	「和名抄」の額部郷にちなむ	富岡市
83	緑野郡	小野村	おのむら	中栗須・上栗須・中・森新田・森・中島・立石・立石新田の8か村が合併して成立	〈古代の郷名にちなむか〉	藤岡市
94	西群馬郡	久留馬村	くるまむら	高浜・本郷・白岩・宮沢・十文字・三ツ子沢・神戸（ごうど）の7か村が合併して成立	上古車持君領有の中心地久留米評（郡）があることによる（久留馬村誌）	榛名町
95	西群馬郡	車郷村	くるまさむら	善地・富岡・和田山・白川の4か村が合併して成立	「和名抄」群馬郡十三郷の1つ「群馬郷」より取った	箕郷町
98	西群馬郡	上郊村	かみさとむら	中里・保渡田・生原・井出の4か村が合併して成立	「和名抄」群馬郡十三郷の1つ上郊（かむさと）郷から取った	箕郷町・群馬町
113	西群馬郡	長野村	ながのむら	吾嶺・西新波・菊地・南新波・北新波・楽間・行力・浜川の8か村が合併して成立	当地が「和名抄」群馬郡の長野郷に当たり、また中世末期箕輪城を築城した豪族、長野氏の発祥地であることによる（長野村誌）	高崎市
141	南勢多郡	芳賀村	はがむら	小坂子・五代・端気・鳥取・嶺・勝沢・小神明の7か村が合併して成立	〈古代の郷名によるか〉	前橋市
142	南勢多郡	桂萱村	かいがやむら	江木・堤・亀泉・堀之下・石関・東片貝・西片貝・三俣・幸塚・上泉・荻窪の11か村と上沖之郷・下沖之郷の計13か村が合併して成立	〈古代の郷名によるか〉	前橋市
10	利根郡	桃野村	もものむら	上津・下津・月夜野・小川・石倉の5か村が合併して成立	古代の呉桃郷と月夜野村との合成（合併史）	月夜野村
6	利根郡	川場村	かわばむら	門前組・谷地村・川場湯原村・中野村・萩室村・立岩村・生品（なましな）村・天神組・太田川村・小田川村の2組8か村が合併して成立	古郷名（合併史）	川場村
23	吾妻郡	太田村	おおたむら	泉沢・小泉・植栗・岩井の4か村が合併して成立	旧郷名による	吾妻町
64	北甘楽郡	吉田村	よしだむら	南蛇井・中沢・蚊沼・神成（かなり）・上小林村の5か村が合併して成立	昔の郷名による。時の村長の提案（合併史）	富岡市
90	南甘楽郡	上野村	うえのむら	野栗沢・新羽・勝山・乙母（おとも）・川和・乙父（おつち）・檜原の7か村が合併して成立	上山郷の郷名にちなむとされている	上野村
96	西群馬郡	箕輪村	みのわむら	西明屋・東明屋・上芝・下芝・矢原・金敷平・松之沢の7か村が合併して成立	〈昔の郷名にちなむ〉	箕郷町
148	佐位郡	赤堀村	あかぼりむら	今井・五目牛・下触（しもふるい）・堀下・市場・野・西久保・曲沢・間野谷（あいのや）・香林・西野・磯の12か村が合併して成立	〈昔の郷名によるか〉	赤堀町
189	邑楽郡	高島村	たかしまむら	秋妻・藤川・石打の3か村が合併して成立	かつて当村が高島郷に属し高島原と称していたことによる（邑楽郡誌）。	邑楽町